



城原八幡社の林内を流れる城原井路

1615年(慶長20年)~1681年(天和元年) 没年67歳

主な水路開削事業
城原井路・緒方井路

中川久清

岡藩の基礎を作り、井路開削に取り組んだ英主

年号	元号	年齢	出来事
一五九四年	文禄三年		中川家、兵庫から岡藩に移転
一六一五年	慶長二〇年	1	久清、伏見に生まれる
一六二八年	寛永五年	14	阿蘇山噴火。久清、岡藩に帰る
一六三〇年	寛永七年	16	江戸へ出府。将軍家光に初御目見
一六四〇年	寛永一七年	26	近江膳所藩主石川忠総の娘と結婚
一六四一年	寛永一八年	27	長男久恒誕生
一六四五年	正保二年	31	二代目藩主久盛、緒方下井路着工
一六四九年	慶安二年	35	熊沢藩山に御事する
一六五一年	慶安四年	37	
一六五三年	承応二年	39	久盛死去。三代目藩主に就任
一六五四年	承応三年	40	藩政整備に着手。緒方下井路完成
一六五七年	明暦三年	43	郷中法度を発布
一六五八年	万治元年	44	領内の検地を実施
一六六〇年	万治三年	46	熊沢藩山を招聘
一六六一年	寛文元年	47	城原井路着工
一六六二年	寛文二年	48	緒方上井路着工
一六六三年	寛文三年	49	城原井路完成
一六六七年	寛文六年	52	久恒に家督を譲る。久清隠居
一六七二年	寛文一一年	57	緒方上井路完成
一六八一年	天和元年	67	江戸の帰途で発病、岡藩で死去



中川久清肖像画

久清の生い立ち

中川久清は、賤ヶ岳の戦いで有名な中川清秀のひ孫にあたります。

優れた武士と言われる一方で、学問好きでも知られ、幼い頃から兵学や陽明学を学びました。

そのため、藩主になる前から高い評価を受けていました。

岡山藩主の池田光政とは又従兄弟にあたり、親交があった事が、光政の日記からわかっています。

※陽明学とは中国から伝わった学問の一つ。江戸時代に伝わり、代表的な学者は中江藤樹と熊沢蕃山。

中川家家系図



日本一の堅城とうたわれた岡城の石垣



天下の七賢将

当時、水戸光圀を筆頭に高く評価された武士の一人が久清でした。

後に、久清が外国の侵攻に備え、軍備強化を行ったことを徳川幕府に逆らうためと疑われた時に、光圀が「久清がいる限り、九州の守りは安泰だ」と言って幕府を安心させるのを助けてくれたと言われています。

久清の決意

中川家は豊臣秀吉の命令により兵庫から国替えしました。この時、「岡藩は7万石の領地でも10万石以上の生産力がある」と見込んでいました。

久清は、世の中が平和になったのを見て、岡藩の暮らしを向上させるため、藩政の改革を行うことを決意しました。

久清の藩政改革

藩主になった久清は、まず家臣に命じて藩政改革を行う一方で、「郷中法度」という農村のきまりを定め、米などの収穫量を増やし、藩経済の安定化を図りました。

就任早々、次々に藩政改革に取り組んだ久清でしたが、あまりに急いだため家臣や農民が不満を持ち、反発が起きました。

そこで久清は池田光政に頼み、また幕府に了解をもらって、当時、天下第一とうたわれた大学者を派遣してもらうことに成功しました。それが元岡山藩士の熊沢蕃山です。

久清の井路開削

久清は藩主になった翌年、井路（農業用水路）などを造るよう奉行に命じていますが、井路の完成が当時の記録に残っていない事からも、当初はあまり大きな成果が上がらなかったようです。

このことも熊沢蕃山を招くきっかけになったと思われます。蕃山は約40日しか岡藩に滞在しませんでした、農民保護や治山治水事業などについて政策を残し、その後の藩政に大きな影響を与えました。

蕃山の提案を受けた久清は、大規模な井路開削（城原井路、緒方井路）を行うため、藩の予算を使うことにしました。

寛文元年（1661年）から行われた井路開削により、久清は水が届いた土地から、次々と水田を新たにつくらせました。その結果、岡藩の石高（米などの収穫量）は大きな伸びを見せました。

寛文4年（1664年）、久清は幕府に「岡藩は7万石の所領だが、3万石の増加があった」と届け出ています。



山川は天下の本なり。
蒼生悠々の業、
山川は万物生々の本、



熊沢蕃山肖像画

熊沢蕃山（くまざわばんざん）

元和5年～元禄4年（1619年～1691年）

熊沢蕃山は江戸時代初期の儒学者で、当時天下第一の経世家（政治・経済学者）と評され、幕府からも登用の話が来るほどの人物でした。

また農業土木の第一人者としても知られ、多くの功績を残しています。

没年74歳。



中川久清と熊沢蕃山

久清は蕃山の弟子でもあったことから、師の蕃山を招くにあたり、自ら大分市の三佐港まで送り迎えし、藩内も自ら案内しました。

蕃山も弟子の久清のため、多くの政策提案と水利技術の伝授を行い、後の藩政を支えたと言われています。

久清は大変感謝し、中川家の家宝、名笛「木枯」を贈り、お礼としたと伝わっています。

城原井路

寛文元年～寛文3年
(1661年～1663年)



水源の一つ 老野湧水と妙見社

城原井路は、熊沢蕃山の技術を使い、最初に完成した井路です。頭首工の取り方、勾配のつけ方、流路の取り方は、その後の藩内の井路づくりの手本となっています。

久清は町奉行の青木孫左衛門、森本又衛門に命じて開削を行わせ、その費用は全額藩費だったと伝えられています。

完成した井路により、城原・明治・豊岡地区の546町(約540ha)がかんがいされたと伝わっており、現在も約350haを潤し続けています。



神田頭首工



頭首工直下の井路の流れ

神田頭首工は、城原井路の水の取り入れ口で、久住川から取水しています。

この頭首工は、久清の時代から同じ場所で井路に水を送り続けており、平成17年には「全国疎水百選」に選ばれています。



昭和初期の水路橋の改修工事



藩の財政を支えた 岡大豆

当時の岡米・岡大豆の評価は高く、特に岡大豆は全国一と評価され、その値段が大豆相場を左右しました。

久清以降の農業振興により、これらの評価が得られたと言われています。

なお、現在日本一の栽培面積を持つ「フクユタカ」は岡大豆の血を引く品種です。



豊後竹田駅裏の
「落門の滝」

城原井路の終点の一つはJR豊後竹田駅の裏手の崖上に流れ着きます。そこから落ちる滝を見て、広瀬淡窓が詠んだ漢詩の一節にちなみ、「落門の滝」と呼ばれています。通水時期しか見ることができない、珍しい滝です。



千巖萬壑大岡藩
士庶肩摩道隋喧
絶壁雲懸公子館
断崖泉落太夫門

廣瀬淡窓が岡藩の賑わいと武家屋敷の様子を詠んだ漢詩

城原井路は丘陵地帯全体に水が送れるよう、頭首工から尾根をまっすぐ流れ下っています。このため火山灰土や軟岩によって崩れやすい場所も避けられず、非常に難工事だったと伝わっています。

久清が藩の事業として、井路開削を行ったため、完成したといえるでしょう。

この井路の完成によって、この地区では大規模な水田開発が行われ、山の斜面にも新しく水田を開くことができるようになり、「田毎の月」をながめられるようになったと伝わっています。

完成後は度重なる大改修を行いつつ、今でもこの地域の水田農業を支える重要な役割をになっています。



緒方井路

正保2年～寛文11年
(1645年～1672年)

緒方井路は、元和9年(1623年)の阿蘇山噴火など引き続く天災に、二代目藩主中川久盛が農業振興のために開削を決意、工事を開始しました。

工事は長期間にわたり、三代目藩主久清、四代目藩主久恒に引き継がれ、上井路、下井路ともに完成しました。



頭首工と井路と原尻の滝

久清は寛文2年、久盛の工事を引き継ぎ、郡代・小島兵左衛門に命じて、上井路開削に着手しました。大規模な水路工事であったため、完成したのは寛文11年と、久清が命じてから10年がたっていました。



緒方井路を作った 高度技術

緒方井路は、平均で1/1,000という勾配の緩やかな水路で、微妙に途中の勾配を変えたり、泥抜きを付けたりと、末端まで水を行き届かせるために、非常に高い技術が用いられており、熊沢番山の教えを受けたとされています。



緒方井路と水車

緒方井路に流れ続ける、祖母山系からの水は涸れたことがないと言われ、その歴史と美しさから、平成17年には「全国疎水百選」に選ばれています。

「道の駅」が井路のそばに設置されたこともあり、井路にまつわる各種のイベントがここで開催され、多くの人で賑わいます。



井路祭り(子供による魚のつかみ取り)

緒方井路の完成により、原野や畑が水田になり、「緒方五千石」と呼ばれる岡藩の穀倉地帯に生まれ変わりました。現在もこの地区の米は「緒方米」と呼ばれて評価が高く、その生産を支える役割を緒方井路は担っています。



緒方井路

総延長… 17km

受益面積… 232ha



昭和8年 緒方五千石祭での千盆搦き



井路の補修は大仕事

当時の緒方井路は石積みで毎年補修が必要でした。

補修には大量の練った赤土が必要で、練る作業を「千盆搦き」と言いました（練る赤土を盆と呼んだため）。

大変な重労働だったため、木遣り唄を歌ったり、競争させて賞品を出したりと作業がはかどるよう工夫していました。

「千盆搦き」は大正時代に井路がコンクリート製になるまで続けられ、県選択無形民俗文化財に選ばれています。

久清の遺したもの

久清の藩政整備により、岡藩は外様大名の小藩でありながら、改易も領地削減も受けることなく明治維新を迎えました。

小藩分立の大分県で、関ヶ原の戦いの前からの領地を守り、明治維新を迎えたのは、岡藩だけでした。久清の藩政改革と善政が、岡藩の基礎を築き、明治維新まで存続させたと評価されています。



大分県立先哲資料館編『知ってるつもり？小藩分立』より



大船山中腹の入山公墓

久清と大船山

久清は寛文六年(1666年)に長男・久恒に家督を譲って隠居しました。(名も入山と改めました)

隠居後は、大船山登山を趣味とし、地元の農夫、野原蛇之助に担がせた「人馬鞍」に乗って登ったと伝えられています。

久清は大船山を愛し、遺言によって大船山中腹の鳥居ヶ窪(標高1,300m)に墓所が造られ、御霊屋と呼ばれて保存されています。

